

第6回 館山市総合計画審議会 会議記録

1. 日 時 平成27年7月23日(木) 午後2時00分～
2. 場 所 館山市役所 本館2階会議室
3. 出席者

委員構成	氏 名	役 職
市議会議員	石井 敏宏	市議会議員
	石井 信重	市議会議員
	望月 昇	市議会議員
	森 正一	市議会議員
教育関係者	半澤 美緒子	館山市教育委員会 推薦
	澤田 茂一	国立館山海上技術学校 推薦
産業関係者	杉井 繁樹	館山商工会議所 推薦
	高橋 實	安房農業協同組合 推薦
	鈴木 久雄	館山市漁業協同組合連合協議会 推進
	小金 晴男	一般社団法人 館山市観光協会 推薦
	原 徹	公益社団法人 安房医師会 推薦
	須田 敏男	館山市地域公共交通会議 推薦
	吉田 南子	館山市地域包括支援センターなのはな 推薦
池田 太一	一般社団法人 館山青年会議所 推薦	
知識経験者	石井 久治	館山市町内会連合協議会 推薦
	鈴木 正弘	社会福祉法人 館山市社会福祉協議会 推薦
	忍足 伸一	館山市体育協会 推薦
	古橋 博子	館山市子ども・子育て会議 推薦
	田中 真由	公募委員
	溝口 かおり	公募委員

(欠席者) なし

4. 議題

- (1) 「館山市人口ビジョン」素案について
- (2) 「館山市まち・ひと・しごと創生 総合戦略」骨子案について
- (3) 第4次館山市総合計画
「前期基本計画」骨子案（計画事業リスト）について
- (4) その他

5. 会議の経過

- (1) 新委員への委嘱状交付（忍足伸一委員：館山市体育協会 推薦）
- (2) 議事

①「館山市人口ビジョン」素案について

（事務局より説明）

田中委員： 合計特殊出生率を指標とすると、移住者が連れてきた子どもの数が反映されない。

私の住む神戸地区は移住者が多く、神戸小学校は、学年によっては半数以上が移住者の子どもである。合計特殊出生率 2.1 を目指すだけでなく、子育て世代の移住者を多く取り込んだ場合を想定して、2つの柱で将来の人口展望を考えてはどうか。

事務局： 移動率を 15%改善するとした中に、出産可能な年代の移住者や、子ども連れで移住してくる方も想定している。ただし、新たに移住者が連れてくる子どもを考慮したとしても、将来推計の中ではほとんど影響がないため、明示してはいない。目指す方向としては、子ども連れも想定した中での移住促進の考えである。

田中委員： 移住者の子どもが人口の押し上げにつながるぐらいに移住促進をするべき。移住促進に力を入れるのだろうが、今の案だとそこまで重要視していないように感じられるので、案としてここに記載したほうが良いと考える。

原委員： 合計特殊出生率は他と比較するために必要で、これで良いと考える。ただし、「転入については考慮している」、「館山にはその可能性がある」ということを一言加えられれば良いのではないかと。

田中委員： 合計特殊出生率については重要なので、これで良いと思う。

原委員： 転入を積極的に促進するというような記載を追記すれば良いと思う。

石井（敏）委員： 結婚・出産・子育ての「支援」というのは良く聞かすが、「希望をかなえる」としたのは何か意味があるのか。（P26 3行目）

事務局： 「支援」だと行政的な色合いが強くなる。結婚・出産・子育ては、若い方達が希望して初めて可能となることなので、まずは、若い方達に「こうしたい」という気持ちをもってもらうこと、そして、それをかなえられるように支援するという段階を踏むことを考え、「希望をかなえる」とした。

石井（敏）委員： 同じくP26に「安定した雇用の創出」とあるが「安定した」というのがキーワードだと思うがどうか。

事務局： 単純に「雇用の場を作る」だけでは、経済的な安定や気持ちの安心感を生み出すことはできず、人口増や転入増にはつながらない。経済的な安定も含めた中での「雇用の創出」が必要であるということで、「安定した」を加えている。

金丸市長： 経済的な面も全部含め、こういう仕事に就きたいと希望してけば、ずっと続けていくことも可能かもしれないが、まずは生活しなければならないということで仕事に就かれる方もいる。そういうことで選択肢を増やしていきたい。

ちばぎん総研： 話に出た「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」という部分の補足説明をさせていただく。館山市では、地方創生が注目される前に、昨年、先行して市民アンケートを行ったため、出産・子育てに関する詳細なアンケートを行っていないが、国の全国的な調査では、希望する子どもの数と実際の子どもの数とでギャップがあるという結果が出ている。館山市でも国の結果と同じような傾向があると予想され、実際に、子ども・子育てに関するアンケートの自由意見では、そのような回答も多くみられた。こうしたギャップを埋めていきたいという思いから「希望をかなえる」という表現にしている。

石井（信）委員： 今回、出生率が2025年までに1.8、2030年までに2.1という具体的な目標値が示されたが、この目標を実現させるための具体的な対策はこれから話し合っていくということで良いか。

事務局： そのとおり。

望月議員： 館山市の転入・転出は主に自衛隊に関係する方が多いと思う。この審議会に自衛隊関係者がいないのが疑問。自衛隊関係者のご意見を伺い、生活しやすい・子育てしやすい環境としていくべきではないか。

事務局： 本審議会は、各界各層の代表の方を委員としまして、館山市の方向性を定める総合計画に関する内容を審議しますので、自衛隊関係者の方には別のタイミングでご意見を聴く必要があるものと考えている。

金丸市長： 審議会委員としてお願いはしていないが、アンケートできめ細やかに意見を拾い上げているのでご理解いただきたい。

望月議員： 当市の人口の社会増減について自衛隊関係者の影響は大きい。審議会の参加メンバーに入っていないのはそういう慣例だからなのか、自衛隊は考慮しなくても良い、関係ないという考えなのか。集団的自衛権の話もあるが、自衛隊の今後によって当市の人口が大きく左右されてしまうこともあり得えないとは言えないので、生の声を聞けたほうが良いと考える。

原委員：自衛隊を誘致すれば人も来るだろうという話もあるが、デリケートな話であることは間違いない。防衛省の管轄であり、館山基地の現場の人間が判断できることではない。情報を収集していくことは必要だが、この中で道筋をつけてしまうのは良くないと思う。

金丸市長：自衛隊は関係ないということでは決してない。ただし、自衛隊は個人の自由意思で異動できるわけではない。館山市の戦略を立てる中ではアンケートからご意見を聴くという形で良いと思う。

事務局：市としては、産官学金労言の様々な立場の市民から意見を聴くという方針で考えており、審議会には金融機関の方や労働関係の方も入っていない。自衛隊は関係ないという考えではない。

②「館山市まち・ひと・しごと創生 総合戦略」骨子案について

(事務局より説明)

杉井会長：この議題については今すぐ質問することが難しいと思うので、意見提案書により意見を挙げてもらいたい。

古橋委員：基本目標の「海の魅力に磨きをかける」は館山独自のもので大切だと思う。

また、海の魅力は安心安全とつながっていることが必要だと思う。東日本大震災以降、大きな災害に対する市としての具体的な対応があまり見えてこないのが、市民が不安に感じているところと一致しているのではないか。

金丸市長：災害にもいろいろある。津波の問題や集中豪雨の問題等、個々に対応をとっているところ。一番力を入れているのは、各避難場所の耐震強化や各地区において災害時に対応できる組織を作ること。ソフトとハードを組み合わせた対応を検討している。個人個人が自分自身を守るという気持ち、また隣近所で助け合うという気持ちも大切。そこに行政機関がしっかり取り組んでいくことが大切だと考えている。

原委員：災害発生時に、市独自でできることも限られている。姿勢は必要であるが、物流関係等、安房郡では1箇所だけになっており、県が統括して行う形になっている。

石井（信）委員：前期基本計画の事業と総合戦略の中の主な事業との整合性があるということだが、戦略の中に基本計画とは違う独自のものはあるのか。3市1町で広域的に連携していく具体的な事業はあるのか。

事務局：総合戦略は、基本計画の中から「ひと・まち・しごと」に関する事業を抜き出して特化した形。広域連携について、観光分野ではすでに行っているが、その他も幅広い分野で連携しながらまちづくりを進めていくという方針で考えている。

金丸市長：総合戦略は当市の特徴を出していくべきで、他と一緒にはいけない。基本目標の内容にも特徴を出した。是非とも委員の皆さんのご意見をいただきたい部

分である。

事務局：時間が短いですが、今月中に説明した案へのご意見、追加すべき案等があれば意見提案書によりご提出いただきたい。

③「前期基本計画」骨子案（計画事業リスト）について
（事務局より説明）

古橋委員：例えば、資料7の「母子保健事業」の担当課は健康課となっている。こども課も一緒になって対応しているのが大半だと思うが。

事務局：担当課は、主に担当する課という意味で記載しており、実際には他の課と連携して対応する。

金丸市長：組織を動かす中で、主担当の課を決め、責任の所在を明確にしないとがなかなかできない。担当課が窓口になるということ。

石井（敏）委員：全体としてみてどれもニーズがあると思うが、すべて行う財源があるのか疑問。人口が減少していく中、財政の見通しは大丈夫なのか

事務局：計画を立てる際には、まず市としての方向性を定め、あるべき姿を考えていくべきだと考えている。実態上の話では、ある財源の中で考えていかざるを得ない。そういう意味では、事業の実施時期は、財源の状況によって調整することになるだろう。

石井（敏）委員：いろいろな会議に出ると、一つ一つきめ細やかな議論があるが、「船形バイパス」や「青柳大賀線」、「下水道」とか「ごみ処理場」とか、大きな事業の話になると議論が不十分になりがちだと日頃感じている。

国も今あるインフラの維持の方向に向かっており、今後は新規大型のハード事業は厳しく精査していく必要がある。

事務局：国のほうも今ある施設のメンテナンスのほうにウェイトを置いている。当市としても、資料7の計画事業リストにあるとおり、「公共施設総合管理計画の策定」の中で、現在ある70以上の施設をどういった形で延命していくか、長寿命化していくか、といったプログラムをこれから重点事業として位置づけ、考えていく。

今回の計画事業のリストについては、これからの10年間の総合計画のうちの前半の5か年の計画事業を、各課、また関係機関とヒアリングをした中で、こういった事業が必要だろうということで、『笑顔あふれる 自然豊かな あったかふるさと館山』の将来都市像に向けて、どういった施策が必要かということで位置づけたものである。

財政的な擦り合わせは今後になってくるが、個々の予算化については、各年度の予算査定の中で決めていく。今回は5か年の予算編成ではないので、5か年の前期基本計画における計画事業の位置づけをしていこうというものである。

森委員：基本計画事業リストで緑色に記した重点事業は、すべて総合戦略に絡んでいくということで良いのか。総合戦略はKPIで評価していくが、基本計画にお

いても何かの項目で評価していくことになるのか。

事務局：重点事業すべてが総合戦略に絡んでいるわけではない。総合戦略は、ハード事業よりソフト事業を重視しており、基本計画事業のうち、総合戦略の趣旨に合うソフト事業は概ね網羅している。基本計画においても進捗管理・PDCAによる評価が必要になるので、これから目標を設定していきたい。

森委員：数値化したほうがわかりやすい。評価方法を今後検討してほしい。

石井（信）委員：総合計画の重点事業の中で新規で行われる事業、コミュニティ医療推進事業やオリンピック・パラリンピックのレガシーを見据えたまちづくり等が、
当

市の総合戦略のポイントとなるはずで、そうした事業を分かりやすくみせると良い。

事務局：この点は今後工夫していきたい。

杉井会長：こちらの議題についても追加の意見・提案を受け付ける。

④その他

（事務局より以下を説明）

- ・今後のスケジュール
- ・タウンミーティング
- ・意見提案書

原委員：総合戦略の施策の一番上に「マリンレジャー関連産業等の誘致」とあるが、企業誘致について、具体的な動きや話があるのか。

金丸市長：具体的な話はないが、可能性がないというわけではない。

森委員：タウンミーティングは、今日の会議資料に基づいて説明すると思うが、タウンミーティングに参加する人が、事前に資料を入手することはできるのか。

事務局：今日の会議資料はHPに掲載する。

森委員：実際にはHPをご覧にならない方もいる。多くの方に知ってもらうために、公民館に資料を置く等、何かしら工夫をしたほうが良いと思う。

田中委員：タウンミーティングを広く周知することが必要なので、回覧板や元気な広場、図書館・郵便局等の人が集まる場所に案内を張ると良いのではないかと。

事務局：回覧板は検討している。委員の方々の口コミで周知することもお願いしたい。

古橋委員：市民が、どこか一部分でも良いので、計画策定に関心を持ってもらえるような、タウンミーティングに関心を持ってもらうような工夫が必要である。

田中委員：もう日程が決まっているので変更は難しいだろうが、元気な広場で開催しても良いと思っている。夜間や8月の土曜日の場合、主婦は参加しづらいので工夫したほうが良いのではないかと。

古橋委員：望月委員が自衛隊の話をしてしたが、元気な広場の利用者には自衛隊のご家

族も多く、慣れない土地で地域の情報や子育ての情報を得るために利用いただいているようだ。館山に魅力を感じて、家を建てた家庭が何軒もある。自衛隊の中にも、館山を魅力的に感じている方がいるようだ。

金丸市長： 元気の広場が自衛隊のご家族に利用されていることは聞いたことがあったが、住居を構えたという話を聞いて驚いた。大変うれしい話で、お知らせいただてありがたい。

以上